

## 日立ニユース

平均カソード電流	20	30mA
尖頭カソード電流	70	105mA
グリッド回路抵抗	2.2	2.2 M $\Omega$
平均特性	発振ユニット	増幅ユニット
プレート電圧	250	250V
グリッド電圧	-8.5	-10.5V
プレート電流	10.5	19.0mA
相互コンダクタンス	2,200	4,500 $\mu$ S
増幅率	17	15.5
プレート抵抗	7,700	3,450 $\Omega$
プレート電流(グリッド電圧-16V)		3 mA
グリッド電圧(プレート電流10 $\mu$ A)		-24 V
グリッド電圧(プレート電流50 $\mu$ A)		-22V

### 日立真空管、南極観測に活躍 温度変化、振動などにも故障なし

昨年11月8日東京港を出発して以来、南極の氷雪とたたかい、昭和基地設定の歴史的役割を果たして、約6箇月ぶりで帰国した。南極観測船宗谷には郵政省電波技術研究所を通じて日立真空管が多数納入されているが、このほど宗谷に乗り組んで長い航海をつづけ、電離層観測に直接当たった人達の座談会から、日立真空管の優秀性が公開された。

これによると宗谷が観測に使用した真空管は全部が国産品でその大部分が日立製作所の製品で、温度変化や宗谷の振動が相当あつたにもかかわらず、クッションや真空管がよかつたので消耗が非常に少かつた、と語られており日立真空管の優秀性が遺憾なく発揮された。

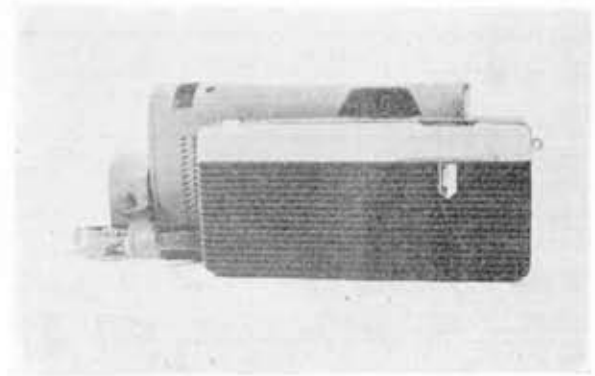
ちなみに、郵政省電波技術研究所を通じて観測隊に納入された日立真空管はつぎのとおりである。

3KP1 UY-807 2K12  
2E26 1K22 UV-211A UX-860

そのほか通信用GT管、ST管、mT管など約数百本

### 日立トランジスタラジオ発売

トランジスタメーカーとしてその動きを注目されていた日立製作所では、その第1号製品として、6石式トランジスタラジオのTH-669型を発売した。このセットは同社が自信をもつて国産最高の品質を誇っている自社製日立トランジスタ6個とゲルマニウムダイオード1個を使用した中間周波増幅2段、低周波増幅2段の高感度な、電池専用スーパーヘテロダインで、特にトランジスタの生命である電池の経済性を生かすため電池は容量に十分余裕があり、かつ安価な単二を使用しているため、おなじトランジスタラジオでも特殊な電池を必要とする小型なものに比べて、電池代は数分の一ですむと同時に音質の向上、プリント配線の良質化など、長期にわたる



第13図 日立トランジスタラジオ TH-669型

試作研究の成果を十分に生かした高性能セットである。またキャビネットは対衝撃性プラスチックを使用し、美しい真珠色とのたくみなコントラストをもつたエレガントなデザインで、キャビネットの色はマルーン(えんじ)、ミッドナイトブルー、ボビー(真紅)、エメラルド・グリーン、ブラックの5種がある。

付属品として高級皮ケース、超小型日立マグネチックイヤホン1個、および便利な吸着式補助アンテナがあり、また応用部品として間もなく発売の日立ホームスピーカを接続すれば大型ラジオと同様の音質音量が楽しめるホームラジオとして使用できる。

### 規 格

回路方式	6石スーパーヘテロダイン
受信周波数帯	535~1,605 kc
中間周波数	455 kc
使用トランジスタ	日立 HJ 23, HJ 22 $\times$ 2 HJ 15, HJ 17 $\times$ 2 1N 34 A (日立ゲルマニウムダイオード)
出力	60 mW (無歪) 100 mW (最大)
電源	6 V (UM-2型(単2号)またはUM-2A(特単2号)乾電池4個)
スピーカ	2.5吋パーマネントダイナミック型イヤホンソケット 2個(EL-212日立マグネチックイヤホン使用)
アンテナ	フェリスティックアンテナ自蔵 吸着式補助アンテナ線付属
寸法	巾 215 mm 高さ 105 mm 奥行 35 mm
重量	800 g (電池共)

### 日立蛍光ランプの光束一段と躍進 国産ハイルーメン蛍光体の成果

日立製作所では蛍光ランプの全品種にわたって約一割の光束改善を行った。今回発表された新しい光束値はたとえば20W昼光色で、970 lm、白色で1,100 lmという高い値であり、この数値は国際水準を凌駕するもので業界最高の光束値となつている。

光束の改善は日立製作所が独自の研究により完成した